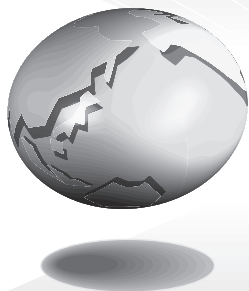


国際研究集会派遣報告



2023 年度 国際研究集会派遣会員報告書

派遣集会：The American Association of Physicists in Medicine 2023
65th Annual Meeting
開催場所：Houston, Texas, USA
開催期間：July 23-28, 2023

AAPM 2023 参加報告

派遣員 八木橋貴之 湘南鎌倉総合病院

はじめに

このたび、2023年7月23～27日にアメリカ・テキサス州ヒューストンで開催された第65回米国医学物理学会(The American Association of Physicists in Medicine 2023 65th Annual Meeting: AAPM 2023)に国際研究集会派遣会員として参加したので報告する。

発表内容

私は、“Evaluation of New Planning Parameter – Delivery Time Factor – for Tomotherapy Planning”というタイトルで発表を行った。この研究では、治療計画装置「RayStation」のtomotherapy用線量計算モジュールの中で照射時間を制御する重要なパラメータであるdelivery time factor (DTF)に着目し、頭頸部癌、肺がんおよび前立腺がんの治療計画において、DTFが照射時間と治療計画の質にどのような影響を与えるかを定量的に評価した。評価は、標的線量の均一性と原体性、標的およびリスク臓器の線量指標に対して行った。

結果として、DTFの増加に比例して照射時間は増加する一方で、線量指標の改善はある程度のDTFで停止することを明らかにした。したがって、治療計画者はDTF値を決定する際に、治療計画の質の向上と治療時間の短縮との適切なトレードオフを考慮する必要があると結論づけた。聴衆は、DTF値ごとの線量分布の違いについて特に関心をもっていた。

AAPM 2023 に参加して

私にとって初めての国際会議への参加で、中でもAAPMは医学物理に関する世界最大規模の学会という点もあり、機器展示の広さや演題数などに圧



Photo AAPM 2023 会場にて

倒される部分があった。今回の会議で特徴的だと感じたのは、口頭発表とポスター発表のセッションの時間が明確に分けられていたことである。ポスター発表のセッションが数多く設けられており、各発表者に対して十分な時間が割り当てられていたため、多くの参加者とさまざまな議論を行うことができた。今回の貴重な経験を今後の自分自身の成長につなげ、放射線治療の発展に貢献していきたい。

謝 辞

AAPM 2023 への参加にあたり，国際研究集会派遣会員として助成いただきました日本放射線技術学会関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。また，研究発表にあたりご指導いただきました順天堂大学の井上達也先

生，東京都立大学の井上一雅先生ならびに国際学会への出席を快く承諾してくださった湘南鎌倉総合病院の皆様に深く感謝申し上げます。なお，助成金は渡航費用として使用させていただきました。